
『大原社会問題研究所雑誌』2009年度総目次

- (1) 2008年度の総目次は、2009年3月号（No.605）を参照されたい。
- (2) 『資料室報』第1号～『大原社会問題研究所雑誌』第599・600号までの総目次については、2008年10・11月号（No.599・600）を参照されたい。
- (3) なお、大原Webサイト（<http://oisr.org>）でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997年4月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化、Web上での公開を行っている。

【2009年4月号 No.606】

【特集】大原ネットワーク・シンポジウム：大原孫三郎が遺したもの

特集にあたって 鈴木 玲

大原農研から資源生物科学研究所へ 村田 稔

大原社会問題研究所の歴史と現状 五十嵐仁

社会を変革する労働科学の歴史と今後の展開 酒井一博

大原美術館：その歴史と現在 柳沢秀行

倉敷中央病院：持続的成長をめざして——創立者のおもいの具現化 相田俊夫

論文 能力主義管理の再編にかんする事例分析 玉井芳郎

書評と紹介 木村保茂・藤澤建二・永野萬享・上原慎一著『鉄鋼業の労働編成と能力開発』 山垣真宏

久保田滋，樋口直人，矢部拓也，高木竜輔編著『再帰的近代の政治社会学——吉野川可動堰問題と民主主義の実験』 船橋晴俊

木下武男著『格差社会にいどむユニオン——21世紀労働運動原論』 五十嵐仁

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

OISR.ORGの窓 [9] 「協調会史料第2集」を公開 野村一夫

月例研究会 無償労働評価の方法および政策とのつながり 橋本美由紀

所 報 2008年12月

【2009年5月号 No.607】

【第21回国際労働問題シンポジウム】ディーセントワーク創出のための技能開発——生産性向上，雇用促進，発展をめざして

特集にあたって 鈴木 玲

2008年のILO総会について 長谷川真一

講演：ディーセントワーク創出のための技術開発——生産性向上，雇用促進，発展をめざして

レイ・グラナル／ILO駐日事務所記

第5議題の結論文書について 林 雅彦

政府の立場から 松原伸夫

	労働者の立場から	伊古田隆一
	使用者の立場から	平田 充
	ILOレポートと日本の若年労働問題	小杉礼子
	質疑応答	
	参考資料	生産性向上, 雇用拡大, 開発のための技能に関する結論
論 文	労働衛生政策としての「工場体育」の変容に関する一考察——1930年代の雑誌『産業福利』を中心に	野依智子
書評と紹介	遠野はるひ・金子文夫著『トヨタ・イン・フィリピン——グローバル時代の国際連帯』	吉田 誠
	二村一夫著『労働は神聖なり, 結合は勢力なり——高野房太郎とその時代』	小松隆二
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所	
所 報	2009年1月	

【2009年6月号 No.608】

【特集】自動車産業の生産方式の直面する課題

	トヨタ生産方式の変容?	佐武弘章
	TPS (トヨタ生産方式) の原点回帰——投下資本の回収効率向上の観点から	柘 紫乃
史料紹介	1924年2月の日本共産党綱領草案	黒川伊織
書評と紹介	井上學著『日本反帝同盟史研究——戦前期反戦・反帝運動の軌跡』	水野直樹
	岩本由輝解題, 北山郁子編集『不敗の農民運動家矢後嘉蔵——生涯と事績』	横関 至
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所	
月例研究会	研究者生活43年を振り返って——公務労働研究と私	早川征一郎
所 報	2009年2月	

【2009年7月号 No.609】

【特集】労働衛生の歴史と現状・日仏比較 (1)

	特集にあたって	廣田 功
	フランスにおける工業労働と労働者の身体 (1820-1914)	齊藤佳史
	フランスにおける珪肺の職業病としての認知	ジャン・クロード・ドゥヴァンク／廣田功訳
	日本における職業性疾患としての珪肺症——その認知と補償への長い道程	ベルナール・トマン／関口涼子訳
資料紹介	広島県の米騒動に関する新史料——「不穩の文字の貼紙」5枚	吉田健二・小宮源次郎
追悼文	卓熙俊先生を偲ぶ——日韓学術交流への貢献について	戸塚秀夫
書評と紹介	上野輝将著『近江絹糸人権争議の研究——戦後民主主義と社会運動』	榎 一江
	猿田正機著『トヨタウェイと人事管理・労使関係』	伊原亮司
	小田康徳編『公害・環境問題史を学ぶ人のために』	大平佳男
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所	

月例研究会 労働の規制緩和と再規制 五十嵐仁
所 報 2009年3月

【2009年8月号 No.610】

【特集】労働衛生の歴史と現状・日仏比較（2）

＜瘴気＞と＜国民の心身の健康＞——戦前日本の繊維工業における産業衛生と女性労働者統制の
政策をめぐる ミヤスマ サンドラ・シャル

腰痛から過労死まで 過労なのか、悪労なのか——フランスと日本のトヨタ工場の例を取り上げ
て ポール・ジョバン／関口涼子訳

労災事故に遭遇した労働者の経歴——フランスにおける公衆保健衛生問題の死角

ヴェロニク・ドバス＝ルトゥルヌウ／齊藤佳史訳

書評と紹介 中央社会保障推進協議会編『人間らしく生きるための社会保障運動——中央社保協50年史』

伊澤 誠

萩原久美子著『「育児休職」協約の成立——高度成長期と家族的責任』 武石恵美子

五十嵐仁著『労働再規制——反転の構図を読みとく』 田端博邦

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

月例研究会 連合の政策展開の分析：政治・経済・組織問題をめぐる対立軸の視角から 鈴木 玲

所 報 2009年4月

新任あいさつ 榎 一江

【2009年9・10月号 No.611・612】

【特集】パターナリズムの国際比較

スウェーデンにおけるパターナリズムと市民的公共性

クリステル・エリクソン&ビヨン・ホリビィ／石原俊時訳

フランス・パターナリズムの史的考察：19-20世紀 アラン・シャトリオ／廣田明訳

近代日本の経営パターナリズム 榎 一江

講 演 私の労働研究——テーマと問題意識 熊沢 誠

資料紹介 山辺健太郎旧蔵「日本社会主義同盟名簿」 廣畑研二

書評と紹介 三富紀敬著『イギリスのコミュニティケアと介護者——介護者支援の国際的展開』 杉原陽子

本田一成著『チェーンストアのパートタイマー——基幹化と新しい労使関係』 佐野嘉秀

下夷美幸著『養育費政策にみる国家と家族——母子世帯の社会学』 阿部 彩

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

法政大学大原社会問題研究所2008年度の歩み

月例研究会 近代日本の経営パターナリズム 榎 一江

所 報 2009年5・6月

【2009年11月号 No.613】

【特集】労働衛生の歴史と現状・日仏比較（3）

フランス労働運動と職業病（1905-1939年） 廣田 功

戦間期フランスにおけるエンジニアと産業衛生 松田紀子

日本における非正規雇用者問題——健康，非正規雇用，社会保障

メラニー・ウルス／関口涼子訳

論文 平野力三の戦中・戦後（上）——農民運動「右派」指導者の軌跡 横関 至

読書ノート ローラ・ハイン氏による「大内兵衛グループ」の抽出と分析——「不定形な理論家集団」における「学問知」の発揮 高橋彦博

書評と紹介 中北浩爾著『日本労働政治の国際関係史 1945-1964——社会民主主義という選択肢』

新川敏光

河西宏祐著『路面電車を守った労働組合——私鉄広電支部・小原保行と労働者群像』

山本 潔

月例研究会 労働者の権利教育をめぐる厚労省・研究会報告書と各種研究・運動団体の取組みの現状

芹沢寿良

所 報 2009年7月

【2009年12月号 No.614】

【特集】中国の労働組合・労働問題（1）

中国における労使関係の変容 塚本隆敏

農民工の就業と権利保障——2008年珠江デルタ9市農民工アンケート調査に基づく 嚴 善平

記念講演 研究者生活43年を振り返って——公務労働研究と私 早川征一郎

論文 正社員女性が育児休業制度を取得後，就業継続する要因——スーパーマーケット6社の事例分析

乙部由子

書評と紹介 武川正吾編著『シティズンシップとベーシック・インカムの可能性』 埋橋孝文

伊藤周平著『介護保険法と権利保障』 里見賢治

吉田徹著『ミッテラン社会党の転換——社会主義から欧州統合へ』 佐伯哲朗

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

月例研究会 「働き方」と親密圏／公共圏 江頭説子

所 報 2009年8月

【2010年1月号 No.615】

【特集】労働衛生の歴史と現状・日仏比較（4）

疲労と貧困のはざままで走る——タクシー運転手の労働・健康と生活に関する追跡調査から

毛利一平・佐々木毅

職業癌の可視化に向けて——バリ郊外（セヌ・サン・ドゥニ県）における長期調査

アニィ・テボ=モニ／松田紀子訳

- 論 文 「終身雇用」をめぐる労使関係の諸相——造船不況期における住友重機械工業で行われた人員整理を中心として 鈴木 博
平野力三の戦中・戦後（下）——農民運動「右派」指導者の軌跡 横関 至
- 書評と紹介 西城戸誠著『抗いの条件——社会運動の文化的アプローチ』 片桐新自
「実業之富山」編集部編著『占領期の地方雑誌——プランク文庫で辿る検閲の足跡』 吉田健二
武石恵美子編著『女性の働きかた』 江頭説子
- 社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 60年安保闘争における抗議のテクノロジー ニック・カプア
所 報 2009年9月

【2010年2月号 No.616】

【特集】中国の労働組合・労働問題（2）

- 中国経済は転換点を迎えたのか？——四川省農村調査からの示唆 丸川知雄
雇用関係の変容 李 捷生
- 論 文 労働組合の関与が企業のCSR活動に与える影響 大藪陽子
世界の製鉄業におけるパテルナリズム：完全に時代遅れの方式か？——アルセロール・ミタル社
19～20世紀 エリック・ゴドリエ／土屋元訳
- 書評と紹介 西川真規子著『ケアワーク 支える力をどう育むか——スキル習得の仕組みとワークライフバランス』 岡村清子
岩田正美著『社会的排除——参加の欠如・不確かな帰属』 菊地英明
ナヤン・チャンダ著／友田錫・滝上広水訳『グローバルゼーション 人類5万年のドラマ』
野村一夫

- 社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 EUの均等待遇政策——日本の新自由主義との対抗軸の視点から 永田 瞬
所 報 2009年10月

【2010年3月号 No.617】

【特集】日本におけるマルクス主義の導入・普及と大原社会問題研究所

- 2つの日本語版『マルクス＝エンゲルス全集』の企画（1928年）——高野岩三郎とD.リャザーノフの苦闘：コミンテルンと商業主義出版のはざままで 大村 泉
翻刻『日本マルクス主義文献』Web版の公開によせて——附論 聯盟版『マルクス・エンゲルス全集』について 久保誠二郎
櫛田民蔵『『共産党宣言』の研究』と大内兵衛による「補修」 玉岡 敦
1920年代におけるマルクス主義の受容と社会科学文献 大和田寛
- 論 文 昇進見込みと職場構成——職場の女性化・非正規化の影響 村尾祐美子
- 書評と紹介 法政大学大原社会問題研究所編『人文・社会科学的研究とオーラル・ヒストリー』 御厨 貴
Tom Bramble著 *Trade Unionism in Australia: A history from flood to ebbtide* 杉田弘也

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 全農全会派指導者の戦中・戦後——「左派」農民運動指導者の動静 横関 至
所 報 2009年11月

法政大学大原社会問題研究所叢書

◎好評発売中◎

◎各研究分野におけるオーラル・ヒストリーの歴史と現状
法政大学大原社会問題研究所編—A5判二七六頁三五七〇円税込
人文・社会科学研究とオーラル・ヒストリー
伊藤隆・大門正克・倉敷伸子・江頭説子・辻勝次・山本潔・梅崎修・吉田健二・
李鍾久・早川征一郎・執筆
政治学・社会学、歴史学、女性史、労働問題などの分野でのオーラル・ヒス
トリーの意義と問題点を学際的な視角より再検討する。編集・早川征一郎

◎戦後日本の起点で活躍した改革派ジャーナリストのオーラル・ヒストリー
法政大学大原社会問題研究所編—A5判四四〇頁六九三〇円税込
証言 占領期の左翼メディア
占領当時の論壇状況や世論、政治・社会運動の背景、左翼運動の脈や秘話
を知ることでできる得がたい史料。編集・吉田健二

◎占領期の日本労働運動史・労使関係史の基礎資料
法政大学大原社会問題研究所編—A5判三九〇頁六八五円税込
証言 産別会議の運動
産別会議の運動家の証言から産業民主主義の展開や経済再建との関連を視野
に入れた労働運動史・労使関係史の解明。編集・吉田健二

◎革新政治と労働組合運動の今日的課題を提示
五十嵐 仁著—A5判四六〇頁六三〇〇円税込
政党政治と労働組合運動
戦後日本における政党政治の変遷と労働組合とのかわりに焦点をあて分
析。革新政治の課題と労働組合運動の今日的課題を提示。

◎全社会的福祉のなかの介護福祉と居住福祉
嶺学編著—A5判三三〇頁四四二〇円税込
高齢者の住まいとケア——自立した生活、
その支援と住環境
〈安心ハウス構想〉〈ケアリビング〉など高齢期の生活基盤である住まいと
ケアについて、制度や実態を分析し課題を探る。

◎「社会史」の方法から見た社会運動史
梅田俊英著—A5判二六〇頁二五五〇円税込
社会運動と出版文化——近代日本における
知的共同体の形成
大正デモクラシー期における社会運動と出版文化の歴史を手書きメモ、日
記、手紙、予審調書など新しい史料で再構成。

◎普通選挙の実施という新たな政治条件下の農民運動
横関 至著—A5判三三〇頁五二五〇円税込
近代農民運動と政党政治——農民運動先進地
香川県の実態と政治
普通選挙下の農民運動は小作争議と共に選挙・議会活動も重要な柱であり、その
運動の動静が政党政治に及ぼした影響を解明。

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20 Tel.03-5684-0751
ホームページ <http://www.ochanomizushobo.co.jp/>